（書式２）

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

「２０２２年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学農学研究科博士課程２年　小川高広

①学習成果

本プログラムを通じ、中国に対する興味や関心がさらに高まった。中国について、さらに「知りたい」と思うようになった。今回は現地へ行けなかったが、今後、現地に赴きたいと思う。

現地に住む中国人の先生や学生から、生の声、彼らの実体験を直接聞けたことは有益であった。中国の社会や文化について、インターネットや書籍などの情報源では得られない新しい知識を身に付けることができた。加えて、経済発展の裏には、根深い問題もあることを知った。ネガティブなことを知ることも、その国を理解する上で、重要だと感じた。

中国語のレベルは、プログラム前よりも向上した。他の学生と中国語で会話の練習をすることがあり、良い機会となった。

②プログラムでの経験

本プログラムでは、語学スキルの向上のために、他国の履修生とともに中国語のレッスンに参加した。
また、中国の文化や社会状況について見識を深める「文化講座」と呼ばれる講義への参加や現地の学生との交流会に参加した。（それぞれの内容について詳細は別紙参照）

③プログラム内容

中国語のレッスン

中国語のピンインの発音練習や漢字（簡体字）の書き取り、教科書を使っての音読を実施。履修生同士による簡単な会話の練習を行った。

文化講座

文化講座では、浙江の紹介や中国のインフラ、中国のＥコマース、食の文化に関する講義が行われた。浙江の紹介では、浙江が中国で最も住みたい場所として有名であること、浙江にある良渚/リャンジュウ（りょうしょう）文化が世界遺産にも登録されており、中国の歴史に大きな影響を与えていること、浙江にある西湖十景は「桃源郷」と言われるほど美しい場所とされていること、また、浙江には北京と浙江を結ぶ京杭大運河があり、物流手段として、中世における中国の経済発展を支えたことなどを学習した。

この他には、中国のインフラやＥコマースなどの講義も行われた。中国のネットビジネスは急成長し、オンラインショッピングを楽しむ人も多いことや、独身の日とされる 11 月 11 日のセールスは、中国全土において、壮大なイベントになっていること、先進的なＩＴ技術により、人々の生活が豊かになっていることなども学んだ。

交流会

現地の学生との交流イベントでは、京都大学や浙江大学の学生同士でクイズを出し、互いの文化について話し合った。また、日ごろ抱いている日本や中国に関する疑問についても、話し合い、お互いの文化や社会の理解を深めた。

④進路への影響について

卒業後は、中国と関りの持つ仕事に就きたいと考えている。今回のプログラムを通じ、その気持ちは、さらに強くなった。

まとめ

我が国と中国は、国際状況、政治、歴史に関する懸念や対立などがあるものの、古くから親交のあった隣国同士である。日本には日本の立場があり、中国には中国の立場がある。お互いに尊重し合いながら、友好関係が維持されることを願っている。今後台湾の問題などで日中関係がどうなるか不明だが、政治の面では厳しい関係になっても、日本にいる留学生などをはじめ、市民レベルでの交流は続けていきた。